

第6回 総合計画特別委員会

令和5年9月14日(木)
5階 第1委員会室

開会 8時56分
閉会 10時29分

午前8時56分 開会

○委員長（小木曾光佐子君）

それでは、皆さん、おはようございます。

昨日までの予算決算委員会、大変お疲れ様でした。引き続きの総合計画の審議ということで、本日はよろしく願いいたします。

上着の着脱は個人の判断にお任せしますので、ご自由をお願いいたします。

ただ今から、令和5年第6回総合計画特別委員会を開会いたします。

○委員長（小木曾光佐子君）

それでは、これより本特別委員会に付託されました議第71号 第7次瑞浪市総合計画基本構想を定めることについてを議題とし、審査をいたします。

本日は市長、副市長に特別委員会にご出席をいただいておりますので、初めに市長から基本構想に対する思いを述べていただき、それに対する質疑を行います。

その後、市長、副市長には退席をしていただきます。そして、改めて担当課長から説明を受け、質疑、討論、採決という順に進めてまいりたいと思いますので、皆さんのご協力をよろしく願いいたします。

市長も今、毎日、市長と語る会で大変お疲れだと思いますが、今日は皆さんの前で思いのたけをお話いただければと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

それでは、市長、水野光二さんよろしく願いいたします。

○市長（水野光二君）

おはようございます。

今、委員長からもお話がありましたように、今、市長と語る会をやらせていただいておりますが、4カ所、4地区で終わりました。それぞれ各議員、地元の議員にもご出席をいただきまして、地域の方と一緒に語る会に参加していただき、本当に今回は事前の通告がない地区もあったんですけど、どうなるやろうと思いましたが、結構たくさんのお意見を出していただくという状況でございまして、今までにない、ある面では充実したというか、中身のある提案や質問もありますし、本当に1時間半、昨日は1時間半超えましたが、内容のある語る会を進めさせていただいております。

また、議員の皆さんにおかれましては、昨日までの各委員会の審査、本当にご苦労様でございました。また、委員会のそれぞれの決定を本会議でご報告いただければと思っておりますけど、本当にありがとうございました。

今日は総合計画特別委員会ということでございまして、現在、総合計画の基本構想をまとめさせていただきましたので、今回、議員の皆さんの審査を受け、審議をしていただくという流れになるかと思いますが、それに並行しまして、12月議会では今度、基本計画を上程させていただきますので、更に具体的な計画を12月ではお示しさせていただきたいと思っておりますので、またそのときにも審査・審議をしていただくということになるかと思っておりますので、よろしくお願ひします。

それでは、基本構想におきます私の思いをここで述べさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、今回、提案させていただきました第7次瑞浪市総合計画基本構想について、委員会審査に当たり私の思いを説明させていただきたいと思っております。

まず初めに、この第7次瑞浪市総合計画基本構想につきましては、地域懇談会、市長と語る会、学生ワークショップ、自治会、まちづくり推進組織ワークショップ、市民、学生、企業アンケート、意見収集ボードによる意見聴取等、多くの市民の皆様にご参加をいただき、共に考えながら作成してまいりました。

多くの貴重なご意見やご提言をいただきました市民の皆様には、心からお礼を申し上げたいと思っております。

本市は、昭和29年、七か町村の合併によりまして誕生して以来、先人たちのたゆまない努力によりまして、福祉の充実、都市基盤の整備、産業の振興、教育文化の充実などを図り、豊かな暮らしを営むことができる魅力あるまちに成長してまいりました。

私たちを取り巻く社会情勢は、少子高齢化の一層の振興や人口減少、情報化社会の急速な進展等大きく変化しています。

これらを受け、地方では人口減少問題の解消及び地域活性化に向けた地域創生の動きが進んでおり、地域の魅力を創出し、発信すべく、各自治体が特色ある政策を展開しているところでございます。

第7次瑞浪市総合計画では、将来都市像を「幸せ実感都市みずなみ～いっしょに創ろう 夢ある未来～」と掲げ、計画期間最終年度の人口目標を3万4,000人程度とし、計画期間において様々な施策を展開していくこととしております。

第6次瑞浪市総合計画を引き継ぐ「幸せ実感都市」というフレーズは、第6次、第7次と計画は進んでも、構想の方向性自体は不変なものであるという考えの下に、将来都市像は変えないという考え方で「幸せ実感都市みずなみ」、そして、サブタイトルにあたりましては、「いっしょに創ろう 夢ある未来」にさせていただきました。

第7次瑞浪市総合計画期間内に進められる瑞浪駅周辺再開発事業や、瑞浪恵那道路の整備、道の駅の整備など、大規模事業と共に、子育て支援やシティプロモーションの強化など、これからの未来を担う若い世代の活躍に目を向け、市民と行政の協働の体制の下、まちづくりが更に広がっていくことをイメージしながら作成したものでございます。

第7次瑞浪市総合計画基本構想の内容につきましては、この後、企画政策課長から説明をさせて

いただきますが、市民の皆様との対話を大切にしながら、将来都市像の実現に向け効果的な施策の推進に努めてまいりますので、なお一層のご理解とご協力をお願いしたいと思います。

以上、第7次総合計画基本構想について、私からの説明とさせていただきます。

昨日も稲津地区の語る会をやらせていただきました。80人を超える多くの方々にご出席をいただきましたけれども、その中に紅一点、高校の制服姿で女性の方が聞いてくれました。

9時頃に語る会が終わりましたので帰ろうと思いましたが、玄関でその女性の方が、高校生の方が待って見えまして、「市長さん、今日はありがとうございました」と挨拶してくれましたので、「できれば、あなたも発言して欲しかったよ」と。

というのは、今、瑞浪市がやろうとしていることは、今の時代のリーダーである我々や議会や経済界の方、地域のリーダーの方が今の瑞浪を作ろうとしているんだけど、でもそれを活用するのは皆さんですよ。5年後、10年後、僕らが今作ろうとしている瑞浪を使うのは皆さんなんだから、やっぱり皆さんからも、「私たちは使わせてもらうんだから、こんな施設にしてください。こんな駅前にはしてください、こんなに稲津にしてください」という話も聞きたかったねという話をしましたら、「私もまだ勉強不足ですので、市長さんが言われるようなことまでは頭がまだまとまってませんし、お話できるような立場ではありませんけど」、一つ彼女が言われたのは、「私は教育問題に大変、今、深い関心を持っておりまして、この夏休みに1カ月間、フィンランドへ、国の何かそういう留学制度か何かの支援を受けて行ってきました」と。

「何しに行ったの」って言いましたら、「教育問題で、特に不登校について、フリースクールについての勉強に1カ月間行ってきました」と、「大変いろんなことで衝撃も受けましたし、あんなふうに瑞浪もなるといいなという思いもありますので、また私なりに市長へ提案させていただきたい場面もあるかと思っておりますので、よろしくお願いします」と言ってくれたから、「すごいね」と。

「確かに今、少子化で子どもの数は減ってきてますけど、発達障害が見られるお子さんの数という割合、そして、コロナ禍で特に不登校が増えている現状もございますので、本当にいいタイミングで勉強に行かれたね」と、「多分、今も大きな課題だけど、これからもっともっとそういうことを我々行政も市民の皆さんも考えていかないといけない時代がこのすぐ近い将来あるんだよね」と、そんな話をさせていただきました。

「やっぱり今の教育委員会というか、国の文部科学省の進めてみえる教育の今の方針というか、それは、ある面ではもう昭和の時代、そして、平成の時代の子どもたちをベースにした制度が今もそのまま引き継がれてるんじゃないかなと。

やっぱりこれだけ多様性になってきてるわけですから、様々な考え、様々な思いのある子どもたちもいるわけですから、そういう子どもたちに寄り添うような、今の学校教育になってるだろうかということは考えないといけない時代だねと。子育て支援で給食費を無料にするとか、そういうことも一生懸命、今、政府がやってるけど、それも大事だけど、やっぱりそういう子どもたちの今の時代に合った変化、これからの変化、価値観、それを見越して先、先手を打った教育行政をやっていかないといけないと思うよね」というお話をさせていただきまして、彼女も「本当に私もそう思

います」というようなことも言ってくれました。

そういう子たちの意見も聞きながら、議員の皆さんもいろんなところで今、議会報告会も行ってみるかと思えますけど、ぜひそういう高校生、中学生、若い子たちの意見なども聞いていただきながら、ぜひこれからの瑞浪がどうあるべきか一緒になって議論していく大切な時期、特にこの第7次総合計画のこの10年間というのは、本当に大きく世の中が変わる10年間になるかと思えますので、そういうことも見据えて考えていかないといけないのかなと、改めて昨日、その高校生と話して感じました。

ぜひ、皆さんの思いをまとめさせていただいた基本構想でございますので、よろしく願います。

ありがとうございました。

○委員長（小木曾光佐子君）

水野市長、ありがとうございました。市長にも、女子高生とのいい出会いがあったということで、またいろんな施策が出てくるのではないかなと期待いたします。ありがとうございました。

それではこれより、市長に対する質疑を行いたいと思います。

質疑はありませんか。

14番 熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

市長のお言葉を聞いて、基本構想でありますので、具体的なことは基本計画で上がるというふうには承知してるところですけども、この前の第6次総合計画のときにも経験したわけですけども、その前の第5次総合計画のとき、もう市長になって見えた、一部分かかったわけですけども、基本構想、基本計画、総合計画というのができる、次に、例えばバトンを渡された方は、そのことに沿って、ある意味一つの荷を背負ってやる期間があって、自分、これ市長が一番よく経験されたやないかと。

高嶋前市長のときが悪かったということではなくて、自分の思いをすぐに形にするというのにもやっぱり総合計画は重たくて、それに従ってということになってくると、非常にじくじたる思いがあったんじゃないかなという気がするわけですね。その何年間に及んで。

そういうことと思うと、総合計画は、言葉の正しいことを述べてある調書でありますけども、実は非常にかさを着せるものでもあって、何かこれをやりましょう、こうしましょうと、こうしては余り良くないことはやれないような雰囲気も、ここに元にあるんやなと思ったりもするわけですけども。

この次の第6次総合計画を策定されたときにも、この10年たって、今はコロナであるとか、ウクライナなんて誰も想像できなかって、経済変化はもうすごく大きく動いたわけですけども、それによって日本全体が変われば、やはりそれが波及して地方にも来てるということがあって、想像できないので、どうしても大まかな正解なことを書くわけですけども。

僕はさっき市長言われたように、みんなの思いはみんなで作るということのイメージの総合計画であるとすれば、先ほど来話が出るとるように、若い人は10年先が想像できる場所があるわけで

すね。ところが、60代過ぎればね、自分はその10年というものが人によって違ってくると思うわけです。

それをもって若い人がその10年を作ればいいということではないですけども、この10年でやっぱり示すべきは、人口3万4,000人というものの目標の中で、そうした定数ではなくて、3万人から3万5,000人の間を目指しますでもいいかなと僕思うわけですけども。

一番、皆さんがこれを読んで期待するところは、こういう課題が10年の間に起きてくるんじゃないかと。その人によって違うと思うんですけど、例えば教育に関しても、本当に学校は維持できるのかとか、公共交通は10年間このとおり確保されるのかどうかと。それぞれもうはつきり見えない中で、この課題について想像し得る。10年間で、人口減少に伴ってこういう課題が出てくるということに対して対応するのか。そのときに考えるということなのかということが見えないと、やっぱり総合計画であるので、もうまちづくりの地域構成は変わらないよと。

どこもがということのためにやるという形を、要は人口を少しでも減らさないためにこういうことをやりますよということも大事かもしれませんが、減っていくという中で起き得る課題についての対応を全体で示されればどうかなということと思うところで。

先ほど言ったように、令和11年の、2029年には5年の見直しがきくときがあるわけです。それで、これは市長の今度の任期の上の4年先の話になるわけですけども、総合計画の重要性は、非常にそういう面でいろんなことで経験もしましたし、思うところでもありますので、総合計画の見直しのことに向けても早期に携わっていただいたらどうだろう。そのときに、1年前か2年前に準備すればいいわというようなやつではなくて、やっぱり見直し、更にはその10年後に関しても、総合計画というものがある程度、市民の皆さんに問う形のようなことになるので、こういうことをやっていきますよというようなことを示すのが総合計画の役割ではないかと。

要は、いわば市民の皆さんと作るという総合計画よりは、行政はこういう方向を想像する中で、こういう方向でいきますよという指針を示す役割があるのではないかなということだと思うところありますので、この基本構想の最初の段階でそういうことも考えられたらどうかなと。今後のことについてになりますけども、ここまできて詳細に修正をなんてことはかなわないことかなと内心思うところですけども、それを示されることがいいのではないかなと思うところですけども、その辺のところの見解をお聞きしたいと思います。

○委員長（小木曾光佐子君）

市長 水野光二君。

○市長（水野光二君）

今、熊谷委員からご指摘ありましたように、基本的には総合計画の基本構想という大きなくくりがあって、それを更にそれぞれの計画を具体的にどんな事業に落とし込んでいったらいいかっていう基本計画があって、更にその事業をどういう予算で、どういう種類の事業に具体的にして、いつまでにやるのかという実施計画、この3段階があるわけですけど、議会にご承認をいただくのは、基本計画までが今位置づけられておりますので、より具体的なものはまたその実施計画の中で、3

年のローリングで、3年間にはこういうことやりたい、1年間やってみて、更に次の1年足した3年間でまたローリングして行って、その実施状況に合わせて実施計画は見直ししながら変更していくという流れです。

今、熊谷委員が良いことを言っていたわけですが、我々は日々、目先の事業もやってみますが、その目先の事業をやることによって、将来どういう展開になっていくかということも見据えながら、日々、今日の事業、明日の事業も、ある程度位置づけておるわけですね。

今日の課題が解決できればそれでよしということではなく、今日の課題、まずは緊急の課題はすぐ補正予算をつけてでも解決しないかんけど、でもそれをやることによって波及する未来も想像していかなくちゃいけないし、また、今の人口推計もそうですし、様々な社会の今、ICTのこの進め方にしてもそうだし、交通網に関しても、ひょっとしたらもう空飛ぶ時代があつという間に来るかもしれないし、そういうことはやっぱりある程度、日々の中で情報収集したり、自分たちでイメージしながら、次はどうしたらいいだろうということも常に考えながら、今に対応していると。そういうふうにご理解いただければありがたいかなと思います。

ですから、今の病院の問題にして、今の東濃厚生病院がもう行き詰まりそうだから何とかしないかんという理由もありますけれども、よく言うように、5年後、10年後、20年後のこの地域の医療提供体制を当然見据えて、第7次総合計画だけではなく、下手したら第8次総合計画にも大きな影響があるだろうということで、今やらないと駄目なんだという判断でやっております。やっぱり未来を見据えてるということでしょうし。

もう一つは、これは国も当然そうなんですけど、公共施設の再編制プラン、これも向こう40年間の計画を見据えて、現在それぞれの自治体にある公共施設の床面積を40年間で30%削減しなさいと、40年後に瑞浪市があるかどうか分からないわけですけども、そういうスパンで、やっぱり国も将来を見据えた計画を今立てなさいということもありますので、これも当然、瑞浪市は再編成プランをまとめさせていただいて、国に、総務省へ提出しておりますので、それをやっぱり総合計画の中に反映してかなくちゃいけない。

その中の一つの代表的な例が、今の文化センターと図書館を統合して床面積を減らす中で、新しい施設を作ろうということもそうでしょうし、まだ動いてませんが、化石公園にあります化石博物館とか市之瀬廣太記念美術館とか、陶磁資料館、これも統合する計画なんですけど、これもやっぱり今やれるわけではないんだけど、もう位置づけながら、これは多分、第8次総合計画ぐらいいのときにより具体的な事業になるんだろうかと思えます。

やっぱりそこら辺のところも見据えて落とし込んでいかなくちゃいけないし、さっきの交通体系についても、今の東鉄さんや平和さんの交通体系だけを今、頼りにしてますけど、当然、もうドライバーも確保できなくなってきたり、様々な社会変化が、システムが変わってきてますので、これを見据えて、もう既に自動運転のことについてもいろいろな研究を始めさせていただいてますので、そういうことも第7次総合計画には落とし込むし、多分それが花開くのは第8次総合計画ぐらいいになるんじゃないかなと、そんなことも見据えております。

当然、将来を見据えられるのは、やっぱり我々、政治家でないとなかなかその辺のところは思い切って将来は描けませんので、その辺のところは、行政の職員の力も借りながら、国や社会の情報も集めながら、政治家としてイメージしなくちゃいけない部分もあるんじゃないかなと。その辺のところもやっぱり総合計画の中に落とし込んでいかないと、行政が集めた情報だけでは、本当に現実的な情報だけで判断していかなくちゃいけなくなりますので、人口にしたって3万4,000人、本当に大丈夫かと。人口研究所ではもう3万人、3万2,000人になるんじゃないかと推測してますけど、それをそのまま採用したら夢も希望も何もないですよ。

やっぱり我々が10年間努力することによって、大方はこれだけ減ると言ってるけどでも、でも、やっぱり政治家としてある程度、夢をそこにオンしたいよねと。専門機関が調査した数字だけ並べていけば、それは間違いないかもしれないけれども、それじゃあ寂しいんじゃないかなという思いもありまして、3万4,000人。これももっと本当は増やしたいんですけど、そうはいつでも4万人で失敗しておりますので、そういうことも踏まえて3万4,000人でどうだろうという思いでおるんですけども。

世の中が大きく変わるし、市の状況も大きく変わるし、科学技術もどんどん進むし、市民の皆さんの幸せ感もどんどん変わっていくだろうし。そういうのも見据えながら、第7次総合計画に織り込めたらなど。

そのために、やっぱり市民の皆さんの意見も聞かなくちゃいけないと思って、ワークショップとかを大切な機会としてやりながら進めておりますので、ぜひご理解いただきたいと思います。

○委員長（小木曾光佐子君）

市長、ありがとうございます。

14番 熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

本当にそのとおりだと僕は思うんですけども、市長も日吉の市長と語る会にも見えたので、最近若い方も女性の方も増えたんでありがたいなと。

ただ、もうまちづくりというものがね、担ってみえる方が、高齢化になって、更新がなかなかいかないと。地域計画についても同様で、充て職で充ててみえるけども、やっぱり年齢層が高くなる

と。
やっぱり10年後を描いて、1年に何戸当たり来ると人口がここで止まるという話を、年の人がまた意見を言われるんですけど、本来はそれ担って頑張ってもらわなのは、もっと若い層の方であるというところを言うと、全く机上の話になってしまうような感じがして。

例えば、今のこの総合計画に関しても、どうしても若い人が描く将来像というものではなくて、何となく今までのものを守るための総合計画というイメージで言えば、もう出来上がる頃に言っただけなんですけども、これからのことを考えると、それを補う面では、そういう機会を増やしていただきたいと。

この間、議会でも若い方との議会広聴会を開いたわけですけども、その中の声では、こういう機

会を増やしてほしいという、出てみて良かったというような声もあって、出るのがおっくうであるとかあるかもしれませんが、意見も、まずは情報量が足りないと思うわけですが、伝わってないと思うわけですが、やっぱりそういうことを含めても、みんなで作る瑞浪市というイメージで言えば、そういう構想の上に立っているとすれば、やっぱりそれを具現化するのはいろんな事業とかそういうことではなくて、若い人が参加できるような、このイメージの構想というのが先につながると僕思うんですね。10年も先のことを語るわけですから。

そういう意味では、これが基本計画に変わっていくでしょうけども、そういうシステムなのか、機械を作る土壌なのか分かりませんが、旧来のまちづくりがこのまま10年続くかどうかというのも、僕も日吉に住んで非常に危ぶむところがありますので、そういうことをもやっぱり課題の一つに挙げていただいて、この構想を生かしていただきたいという思いでありますので、お願いしたいと思います。

○委員長（小木曾光佐子君）

市長 水野光二君。

○市長（水野光二君）

まちづくりを高嶋前市長の頃から始めて、そして、夢づくり交付金で財政的な支援を始めて、もう16年たってきたわけですし、さっき言ったように、各地域の人口も減ってきて、各地域を取りまとめるリーダーの方々も人口が減ってきた分、減ってきてますので、状況が変わってきてますから、今までのような地域の力を全面的に頼ると、そういうことは難しくなってきたのかなと。

それはやっぱり感じてますので、だからこそ今回、地域計画をまとめていただくことによって、皆さんが気づいていただいて、やっぱり私たちが立ち上がらないといけないよねという、次の世代が動き出してくれるきっかけづくりとして、今、地域計画をまとめていただいとこもあるんですけど。

ただ、僕はついに日曜日、関市の市長選がありまして、山下清というすごい良い名前の市長さんが誕生したんですけど、彼が当選の中で決意表明を記者から質問されてみえましたが、何て言ったかという、「これからは行政だけではやっていけませんと。地域の皆さんと一緒に協働で関のまちづくりをしていきたいと思います」と。

何か昔の16年前、20年前のことを、今は関をこれから始めるのと。そんなことをちょっと聞きましたけど、関としてはそれを市長さんとしては新鮮な取り組みだと。今、関の市長さんが必要なんだと感じられて、そういうふうにならぬように言われたんですけど、ぜひうちのシステムを全部見せてあげますから参考にしてくださいと言いたかったけど。

そういうやっぱり都市間のすごい認識の差はあるんですね。我々は今もまちづくりは当たり前になっちゃってるけど、ある面ではまだそれすらできてない自治体もいっぱいあるということも思うと、我々は先を行ってるんだなと。

先を行ったそれが、この20年間たって制度疲労し始めてると僕らも気づいてるわけですから、まちづくりに関しては、関市から少なくとも20年先を行ってる、そう思ってちょっと聞いておりま

した。

本当に熊谷委員がおっしゃるとおりで、全く今のシステムで次の10年間やれるとは思ってませんので、地域計画を実現するための地域の組織の見直しというのはやっぱり必要ではないのかなと。

それこそまた皆さんの考えを聞きながら、変えていかないといけない10年間じゃないかなと思います。よろしくお願いします。

○委員長（小木曾光佐子君）

ありがとうございました。

ほかに。

15番 加藤輔之君。

○15番（加藤輔之君）

今度の構想の中で、今、熊谷委員と市長の話の中でも大分回答が出てきておったわけですけども、市民の役割、行政の役割という、11ページに書いてあるところで、非常に読んで、「いやあ、えらい市は消極的なんだな」と私は思ってしまっただけですけど、市民の役割の中で、「市民一人一人が瑞浪市民であることに誇りを持ち、また、まちづくりを推進していくことも重要です」ということで、「ことも」の「も」の字が誠に気に入らんというか、「ことが」とか、もっと積極的な方針を期待したわけですけども、非常にこれは消極的に響くんですけど、今、市長の話の中にもあったことで、これから市民の協働ということに対しては、今まで以上に積極的にどんどん出していかれるんか、その辺に疑いを持っておられるんか、ちょっとその辺が聞きたいですが。

○委員長（小木曾光佐子君）

市長 水野光二君。

○市長（水野光二君）

表現が消極的に取られてるのかもしれませんが、ちょっとその文言まで僕はタッチしてませんけど、ただ、市民との協働はやっぱりイメージとしてやってきましたけれども、それを成文化するために、市民まちづくり条例を議会の皆さんからも提案をいただいて作ったわけですね。

そこで、それぞれの役割分担を明確にしておりますけど、じゃあ、団体の方々、企業の方々、そして、市民の方々が自分たちの役割分担をきちっとを自覚して、その条例に沿って毎日動いていただいているかという、やっぱりまだまだそこまで十分、条例が狙っているレベルまで来てないなど、それは感じてます。

特によく言われるんですけど、我々の説明責任が足りない、今回の選挙でも一つのテーマになりましたけれども、でも僕が言いたいのは、協働なんだから、僕らの説明責任も足りんかもしれんけれども、市民の皆さんは市民の皆さんで、さっき熊谷委員が言われたように、様々な情報を自らやっぱり収集して、そして、判断していくという、私は役割も当然含まれてるんじゃないかなと思うんですね。

今、情報化社会ですから、一市民の方でも、小学生でも、中学生でも、市の情報は取れるわけですね。新聞、テレビのニュースでもそうだし、広報でもそうだし、インターネット、ホームページ

でもそうだけど、もっともっと具体的な情報を取ろうと思えば取れるわけなんですよ。

だけど、知らなかった。役所は説明してくれなかったやないか。俺らの知らんうちにもうことが進んじゃってると、まだまだそういうことを言われる多くの市民の方が見えますので、その辺のところは正直言ってズバッと表現で切り込まないかんかったかもしれませんけれども、私はもうそれはもうこれからはっきり言ってこうかなと。

我々も反省するところは反省するけど、市民の皆さんも、市民の皆さんの協働という役割が果たせてますかと。それは、なかなか勇気のいることですけど、我々役所からはなかなか市民の皆さんに注文をつけることは難しいんだけど、だからそういうちょっと優しい表現になってますけど、思いは今、加藤委員がおっしゃったような思いなんですよ。

もっと市民の役割を果たしてよということは言いたいんですよ。ということです。お願いします。

○委員長（小木曾光佐子君）

ありがとうございました。

ほかに。

12番 成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

市長、申し訳ないですけども、総合計画基本構想というのは10年後を目標として、こういう施策を立てて、構想を作って、市の最高理念というもので表されると思うんですけども、10年後の将来像をここで基本構想として挙げられるんだけど、これ私ずっと見させてもらおうと、第6次総合計画とかそんな内容は変わりはない。はっきり言って。

多少あっち行ったり、こっち行ったりすると、中身が濃くなったりすることがありますけど、私生きとるかどうか分かりませんが、一番10年後を考えるのが、チルドレンファースト、子どもだと思えますよ。子どもを一番に考えていかなければ、瑞浪市は駄目になっていかないかと私自身は思うので。

だから、その辺のことをちょっと頭に入れていただいて、今回の基本構想には書かなくていいんですけども、計画とかそういうもののほうに反映させてもらえんかなと私は思うんですけども。

確かに高齢化社会というのは、高齢の人が働くのが高齢化社会だよと皆さんに言っておるわけなんですけども、実際に子どもが少なくなれば働く人が少なくなるんだよね。当然、瑞浪市としても、将来像としてはちょっと萎縮した形になってしまうということを考えると、やはり子どもを増やさなければならぬ、子育て支援を充実していかなければならぬというのが、一番の私基本だと思うんですよ。

それこそ1丁目1番地だと思いますので、その辺を市長はどのように思われるのかなと思って、ちょっとお聞きします。

○委員長（小木曾光佐子君）

市長 水野光二君。

○市長（水野光二君）

成瀬委員がおっしゃるとおりでして、ただ一つ、この総合計画の将来都市像は、10年後に実現するのではなく、10年間で実現する思いで、それぞれの事業を1年から2年、3年かけてやってって、最終的に達成率でまた評価をしていただくということですので、何しろ10年間で「幸せ実感都市みずなみ」、更に10年いただいてやっていきたいという思いです。

おっしゃったように、今回も、さっき言いましたように、本当は中学生、高校生、大学生、20代、30代の若い方々にもっともっと積極的に関わっていただいて、「自分たちが使うんだから、俺らの希望をもっと入れてよ」というような活発な議論がある中で、この総合計画の基本構想がまとめられると良かったんですけど、もちろんその努力はしましたけれども、今、成瀬委員がおっしゃったように十分でないというところは否めませんので、それは少しでも、ここで今、熊谷委員もおっしゃったように、若い方々と意見交換できるような場、そういう方々が発言できるような場を設けようということは、当然だと思いますので、やりながら10年間の目標を達成する努力をし、更に今度の第8次総合計画の中には、より具体的な若い方々の思いが反映できるようなものにしていかなくちゃいけないんじゃないかなと思います。

それこそ今の北エリアの再開発にいたしましても、「未来の子どもたちに渡せる町」というコンセプトを掲げながらも、まだまだその未来の子どもたちの意見が聞けてるかどうかという、もちろんそういうことはやってきましたけれども、どこまで反映しているのかなと。

昨日の稲津の高校生の方にも、「まだ間に合うから、何か駅北の複合施設のことについて提案があったら提案してよ」というお願いはしておきましたけれども、そういうことの繰り返しの中で、よりみんなが納得できる機能、施設にしていきたいなという思いもございますので、ぜひそのようなことをやっていきたい。

当然、第7次総合計画の中にはいろんなハード事業もたくさんありますけれども、ソフト事業、特に子育て支援、教育環境の切り込みについては踏み込ませていただいておりますので、成瀬委員がおっしゃるような未来の子どもたちのためを思った施策事業が、第7次総合計画の中には更に踏み込ませていただいておりますので、ぜひまたご理解いただければと思いますので、よろしく願いします。

○委員長（小木曾光佐子君）

ありがとうございました。

ほかに。

14番 熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

言い忘れたような話ですけども、さっき加藤委員は行政の役割というようなことで出たんですけど、この間、広聴会を商工会議所とも行う上で、事前に議員は定数のことを削減なり、現状なり検討しとるけども、行政は、それじゃあ職員数はどうなんだろうと。自分ら議員のことは目につく数であるけども、行政はどうだろうっていうのを問われたわけですけども、今、会計年度任用職員であるとか、形が変わってきているので、本当のどこまでを職員というのか、時間がどうやというこ

とで、なかなかお答えが定かでなかったんですけど。

もともとがまちづくりや地域がやるのは、これが行財政にきっとプラスになるんだと。手助けになるんだということで地域は頑張るところがあるわけです。

見るところで言えば、行財政改革の部分で言えば、行政自体がもっとコンパクトなものになっていってるんだろうと思ってる人もあるわけで、その分助けとるんやからと。道路の管理も、地域で草を刈っとるぞと、手助けしとるぞとってみんな頑張ってるところがあるわけですよ。

こういうことは、そういう方向性で地域をお願いをするわけやから、地域が言えない地域の事情ということであれば、そういう分で、行政もある程度改革をしてもらわなきゃいけないことにつながると思うわけです。

これはこれから構造改革変わっていくんだろうというふうに思いますけども、やはり拡大していくのではなくて、省略できるもの、集約できるものをも、総合計画にうたうべきことじゃないかもしれないかもしれませんが、その次の行財政改革になるかもしれないけども、やはりそれ自体を示さない、何となく市民の皆さんも協力するのに、無駄骨を折ってるんじゃないかと。

去年やったことを今年もやるのかということの連続というのは、なかなか継続できないという意味では、行政のほうも範を垂れていただきたいと僭越にも思うところでもありますので、その辺のところもちょっとお聞きしたいところでもあるかなと思います。

○委員長（小木曾光佐子君）

市長 水野光二君。

○市長（水野光二君）

おっしゃるとおりでして、そのことについては、当然、我々、地方自治体は総務省の指示を受けながら様々なことを行っている部分もあるんですね。さっきの公共施設の再編成プランにしても、総務省からそういう投げかけがあって、我々が全ての公共施設を洗い出しをして、この施設は残す施設、この施設は廃止する施設、この施設とこの施設を一緒にして、統合して縮小する。そんないろいろなプランをまとめさせていただいて、このプランの策定に当たっても、それこそ市長と語る会員の中でもテーマにさせていただいて、市民の皆さんにも意見を聞かせていただいたという経緯の中でやってきました。

職員の適正化計画というのも、10年以上前からありまして、やっぱりICT化が進んで、事務も機械化できるようになってきましたから、やっぱりそれに見合う職員の適正数を定めて、それに向かって職員数を減らしていきなさいと。そういう通達が総務省からまいりまして、当時480人ぐらいいた職員を計画的に減らしてきて、400人まで減らしたんですけど、ただ400人まで減らしたときに何が起こったかということ、機械化されたとはいっても、様々な職務が国から県から権限移譲されてきてることもありまして、過去やってなかったような事業を今、例えば、パスポートの発給事業なんかでも、昔は総合庁舎まで行かないと取れなかったけど、今、市でできるし、NPO法人の報告にしても県がやってましたけど、今は市がやらされてると、それも介護とか全て。

もっと言うと、今回のコロナなんか全部おお金はくれましたけど、全部市が対応させられて、当

然、市じゃできませんので、業者に委託した部分もたくさんあったんですけど、そういう状況でございます。

決して我々、行財政改革をずっとやってきましたけれども、その中に職員の定数のことに触れないでやってきたわけではなく、減らしながら400人まで来たという事実は、ぜひご理解をいただきたいし、余りにもちょっと厳しいかなということで、消防職員もちょっと今増やして、元に戻しつつあるんですけど。

いろんな弊害が出てきましたので、今は何とか410人ぐらいを維持するようにはしておりますので、この410人が多いよということであれば、またそれなりに参考にして考えなくちゃいけないんですけど、できる限りの行財政改革の中で、職員の見直しをもう既にやってきてるということはぜひご理解、ご評価をいただきたいなというふうに思います。よろしくをお願いします。

○委員長（小木曾光佐子君）

ありがとうございました。

ほかに、よろしいでしょうか。

4番 棚町 潤君。

○4番（棚町 潤君）

おはようございます。ちょっと総合計画についてなんですけど、僕が総合計画に携わったのは、実は10年前に瑞浪青年会議所の理事長のときに初めて見させてもらって、そのときの感想が、ぼやっとしとるといふか、なかなかまとまりを得てないといふか、そういう計画だなと思ってたんです。

議員になって、去年、今年は総合計画に携わらせてもらって、いろいろ見ていく中で、先ほど市長からもお話があったように、国からの仕事が多すぎて、その中で交付税をもらうためにいろんな計画を作らなあかんくて、その計画があるために、こういう総合計画を作らざるを得ないのかなんていうのを勝手にちょっと僕の中で、個人的な見解ですけど思ってる中で、なかなかこの総合計画の意味といふか、内容の本意といふか、そういうところが見えにくいと思ってるんです。

そんな中で、やっぱり10年後の瑞浪を見据えるにあたって、ここには本当、全体的なことが書かれていて、何かあっても取り込まなきゃいけないので、それに対応できるような総合計画になってると思うんですけど、でも本来は何か目指すもの、投資すべきものをやっぱり考えながら、10年後の瑞浪を考えて取り組んでいく、進んでいく、投資をしていくことが大切だと思うんですけど。

その中でこれを市長にお聞きしていいのか分かりませんが、やっぱり10年後の瑞浪に向けて、教育に取り組んでいくのか、はたまた公共交通を充実して福祉に取り組んでいくのか、そういった何か方向性といふか、ここには書けないですけど、何か市長の中で思われてることがあるのであれば教えていただきたいなと思います。

○委員長（小木曾光佐子君）

市長 水野光二君。

○市長（水野光二君）

ここには書けないわけじゃなくて、ここに書いてあります。総合計画基本構想というのは、やっぱ

りそういうまとめ方にどうしてもなってしまうことは否めないかなと。それと我々行政はこれだけやればいいんだと、あとはやらなくてもいいんだという事務はないんですね。やっぱり全てやらなくちゃいけない、子育てもやらなくちゃいけない、教育もやらなくちゃいけない、基盤整備もやらなくちゃいけない。やっぱり我々の守備範囲は全て甲乙つけない中で網羅してかなくちゃいけないっていう、私は使命があるんじゃないかなと思いますので、基本構想に関しては、特に総花的なものになってしまうことは、これは否めないのかなと。

それを元に、今、棚町委員がおっしゃったような、より具体的なことは基本計画で、更にもう少し具体的にして、もっと言うと、その基本計画を実現するためには、具体的にどんな事業をやるんですか。そこに、実施計画の中で、具体的に予算も考えながら落とし込んでいくという、その3段階がありますので、やっぱり今おっしゃったような具体性は実施計画の中でより具体的に折り込ませていただいていますので、ぜひそのところで基本計画に立ててるこの構想は、こんな事業をやらないと実現しないんじゃないかと、それが抜けてるんじゃないかというようなご提案やご指摘をいただけるとありがたいかなというふうに思います。

そういう中で、あえて言えば、私はやっぱり教育というのは、これから大事じゃないかな。さっきの話じゃないですけど、本当に今、性の多様化とかいろいろありますけれども、子どもの多様化は、物すごい進んできてるんじゃないかなと実感してるんですよ。

自分の孫が今、不登校になるんじゃないかなと心配するぐらいなんですよ。教育委員会に言わなあかんな思ってますけど、そんなことちょっと言えんけど、大丈夫なのか今の学校の現場はと、本当言いたいこともないわけじゃないんですよ。

そういうこともありますので、僕は教育というのは、今大きく変えないといけないんじゃないかなと。それは、個人的に思います。じゃあ、教育だけ予算をドンと投下してやっていけばいいのかっていうと、やっぱり介護も福祉も医療もやってかなあかんし、基盤整備も最低限やっていかんかんし。

ですので、一応、計画の中にはやっぱり総花的な計画にならざることは否めないということ。

委員の中にも、基盤整備を熱心にテーマにしてみえる委員さんもいるし、子育てをテーマにしてみえる委員もいるし、教育をテーマにしてみえる委員もいるので、やっぱり、それはそれで、いろんな意見を言っていて、いろんな意見をまとめていくのが基本構想ではないのかなと思いますので、ご理解をいただきたいなと思います。

○委員長（小木曾光佐子君）

4番 棚町 潤君。

○4番（棚町 潤君）

答えにくい質問、ご回答いただきまして誠にありがとうございます。

やっぱり教育については、委員の中にも同じ思いで取り組まれて活動されてる方もいらっしゃると思いますので、ぜひそちらの方向に進むのであれば、やっぱりご支援、足並みそろえてやっていくのが大切かなと思っておりますので、またよろしくお願ひしたいなと思います。

また、総合計画か。またいろいろと見させてもらった中でご意見させてもらおうと思いますので、よろしくをお願いします。

○委員長（小木曾光佐子君）

ほかに。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ここで市長、副市長はほかの公務がありますので、退席をお願いいたします。大変ありがとうございました。

○委員長（小木曾光佐子君）

それでは、引き続き、本議案について執行部の補足説明を求めます。

いま一つ、皆さんにご理解いただきたいのが、ついこの間までは、基本計画をやっておりましたので、その辺がちょっとごちゃごちゃにならないように。今日は基本構想のほうで質疑、応答をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、引き続き、執行部の補足説明に入りたいと思います。

企画政策課長 加藤 昇君。お願いします。

○企画政策課長（加藤 昇君）

おはようございます。それでは、議第71号 第7次瑞浪市総合計画基本構想を定めることについてご説明申し上げます。

議案集の14ページと、別冊の基本構想をお願いいたします。

今回の第7次瑞浪市総合計画基本構想は、「瑞浪市総合計画策定条例」第4条第1項及び「瑞浪市議会基本条例」第8条第1項の規定により、議会の議決を求めるものでございます。

本構想の策定に当たりましては、瑞浪市総合計画策定条例に基づき、令和4年4月に総合計画審議会を設置し、諮問を行いました。

審議会からは、審議を行っていただいた結果として、7月27日に答申をいただいております。

一方、庁内では庁内検討委員会、庁議、第6次瑞浪市総合計画の評価・検証を行ってまいりまして、課題を整理してきました。

この間、本構想の策定に当たり、議会特別委員会、総合計画審議会、市長と語る会、市民、小中学校、企業職員を対象とした各種アンケート、学生自治会、まちづくり推進組織を対象とした各種ワークショップ、内閣府経済産業省の支援の下行った市職員によるリーサスを活用した政策立案ワークショップ、市内の公共施設10カ所に設置いたしました意見収集ボード等を通して、多くのご意見をいただいております。

また、パブリックコメントを通じて、市民の皆様からご意見の反映に努めてまいりまして、その結果として、第7次瑞浪市総合計画基本構想を取りまとめたものでございます。

それでは、第7次瑞浪市総合計画基本構想につきましてご説明を申し上げます。

別冊の第7次瑞浪市総合計画基本構想をお願いいたします。

表紙の裏になりますけれども、目次をご覧ください。

構成として、3章立てになっております。以降は資料編としております。

第1章では、目指すビジョンを位置づけております。冒頭の第1章に特に訴えたいことを持つてくることで、より言いたいことが伝わるのではないかという考えでございます。

第2章では、まちづくりの基本方針、施策の大綱として、目指すビジョンを実現するための5つの基本方針を記載しています。

第3章では、計画の推進に係る内容を記載しております。

それでは、1ページをお願いいたします。

第1章、目指すビジョンであります。

1ページから3ページまで、将来都市像、人口フレーム、土地利用の方向性について記載をしております。

将来都市像は「幸せ実感都市みずなみ～いっしょに創ろう 夢ある未来～」であります。10年後、瑞浪市に関わる誰もが笑顔で、そこまでに取り組んできたまちづくりの広がりを表現すると共に、持続可能な幸せ実感都市としてのあり方を描いております。

先ほど市長が申し上げたところと重複いたしますけれども、「幸せ実感都市みずなみ」というフレーズは、第6次総合計画から引き継いでいるものです。

計画が進んでも、構想の方向性自体は不変なものであるという考えから、将来都市像は変えないという考え方です。

瑞浪市民全ての人の幸せを願う究極の将来都市像であり、未来の目標とする将来都市像であると考えております。

サブタイトルにあたる「いっしょに創ろう 夢ある未来」は、計画期間内にはハード面では瑞浪駅周辺再開発、瑞浪恵那道路の整備、道の駅整備など、大規模事業が進められます。これらを拠点としたまちづくりの展開が期待されます。また、若い世代の活力を取り入れ、協働の体制の下、まちづくりが更に広がります。

併せて、子育て支援、シティプロモーションの強化など、若者世代への支援や情報発信を充実させることで、持続可能なまちづくりに取り組みたいと思っております。

こうした背景から、市民と行政の協働の体制の下、一緒に夢ある未来をつくることで、幸せな暮らしを実感できるまちを目指すことと考えました。

続いて、人口フレームです。人口が減少していく中でも市の活力を維持・向上させるべく、各種政策に取り組み、計画期間である令和15年度末における人口は3万4,000人程度を目指すこととしております。

続いて、2ページをお願いいたします。

土地利用の方向性であります。基本方針としまして、記載のとおり、各地域の未来、魅力ある恵まれた資源を活用し、いつまでも安心して快適に暮らせるまちづくりを進めることで、調和のとれた発展を目指すという方向性を示しております。

土地利用の方向は、6種類のゾーンで構成し、拠点については3種類の拠点を位置づけております。

そして、それらをプロットしたものが3ページの図になります。

土地利用の方向性を瑞浪市全図により、ゾーン拠点を色分けすることで表現しております。

4ページから9ページまでの第2章についてご説明します。

まちづくりの基本方針、施策の大綱として、5つの基本方針と基本方針にひもづくそれぞれの分野における方向性を示しています。

また、基本方針に関するSDGsをロゴで表現しております。

4ページ、1つ目の基本方針は、人・未来を育むまちづくりであります。

子どもは地域の宝であるということを念頭に、子育て支援、学校教育の充実を図ります。また、誰もがスポーツや芸術、地域の歴史、伝統文化に親しむ機会を創出するなどとし、6つの分野における方向性を示しております。

5ページをお願いいたします。

2つ目の基本方針は、魅力あふれるまちづくりであります。

豊かな自然や歴史、文化等を市内外に広く情報発信し、本市の認知度、イメージの向上、本市への愛着の醸成を図ります。また、市民と行政の役割分担の下でパートナーシップを構築し、協働のまちづくりによる課題解決に取り組むなどとし、5つの分野における方向性を示しております。

6ページをお願いします。

3つ目の基本方針は、生涯活躍のまちづくりであります。

一人一人の健やかな心と身体を育み、高齢者福祉、障害者福祉の充実を図ります。地域住民や地域のつながり、支え合いで、生きがいを持って安心して暮らしていける地域共生社会の実現を目指すこととし、4つの分野における方向性を示しております。

7ページをお願いいたします。

4つ目の基本方針、活みなぎるまちづくりであります。

農林業、畜産業、商業、工業等の地域産業と地域資源をか生かした観光を連携させ、新規や規模拡大に取り組む事業者を積極的に支援するなどとし、6つの分野における方向性を示しております。

8ページから9ページにかけて、5つ目の基本方針であります持続可能なまちづくりとして、環境問題や省エネルギー、新エネルギーへの取り組み強化、強靱な都市基盤、利便性の高い公共交通の構築を進め、安全・安心な暮らしが継続できるよう、防災体制の強化、質の高い行財政運営を進める行政改革に取り組むなどとし、8つの分野における方向性を示しております。

10ページから11ページまでが第3章、計画の推進です。

計画策定の趣旨といたしまして、10年後の瑞浪市の目指すビジョンの実現に向けたまちづくりの指針となる第7次瑞浪市総合計画の趣旨を記載しております。

計画の位置づけでは、市の最上位計画として、全ての政策分野の基本方針となることを記載しております。

計画の構成・期間では、第7次瑞浪市総合計画が基本構想、基本計画、実施計画の3つの構成によることを示し、計画期間を令和6年度から令和15年度までの10年間としております。

11ページをお願いいたします。

市民と行政、それぞれの役割について記載しております。瑞浪市まちづくり基本条例を基本とし、市民と行政の役割分担を認識しながら、協働を通じて地域課題を解決し、目指すビジョンを実現すべく取り組むこととしております。

12ページをお願いします。

ここからは資料編になります。市の概況に始まり、13ページ、14ページでは、社会潮流を簡潔に記載しております。

見出しだけ読み上げさせていただきますと、人口減少社会と地方創生、情報通信技術ICTの普及と新たな展開、地域のつながりの再認識、協働の重要性の高まり、経済情勢と働く環境の変化、14ページに移りまして、持続可能な社会の実現、安全・安心意識の高まり、質の向上を目指した行財政運営としております。

15ページ、16ページをお願いいたします。

これら13ページ、14ページ、今ご説明した内容を社会潮流を踏まえまして、本市の今後の方向性を記載しているのが、この15、16ページになります。こちらも見出しを読み上げさせていただきます。

少子高齢化への対応、地方創生の推進、魅力創出と情報発信の取り組み。共に支え合い生きがいを持って暮らせる地域づくり、産業の総合的な活性化、SDGsの取り組み、安全・安心のまちづくり、時代に即した行財政運営としております。

16ページの下段には、SDGsを踏まえた計画の推進について記載しております。

最後に、17ページをお願いいたします。

瑞浪市の人口ビジョンと総合戦略について記載しております。

2060年までの長期的な人口推計について、施策効果を載せたものが青の線になります。計画期間においては、3万4,000人程度を目指すということは、先ほど申し上げたとおりですが、2060年においては、何も手を打たないと2万人程度まで落ち込む人口について、施策効果によって、2万8,000人程度まで歯止めをかけるというものでございます。

そこに加えて、瑞浪市版総合戦略については、重要施策として取り扱う旨記載しているものであります。

第7次瑞浪市総合計画基本構想は、最終的にビジョンブックという形で、ビジュアルデザイン性の高い冊子として作成し、将来都市像やまちづくりの方向性といったビジョンを分かりやすく市民の皆様に伝えていきたいと考えております。

このことにより、市民と行政のまちづくりの指針という計画本来の役割、目的を市民と共有する中で、まちづくりを進めていきたいというふうに考えております。

以上で、議第71号 第7次瑞浪市総合計画基本構想を定めることについての説明とさせていただきます。

きます。

○委員長（小木曾光佐子君）

ご苦労様でした。

これより質疑を行います。

委員の皆さんにおかれましては、一度に複数の質疑は行わず、一問ごとに簡潔な発言をお願いいたします。

それでは、質疑はありませんか。

12番 成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

5ページの協働のまちづくりのところでございますけど、地域活動を担う人材団体育成や市民参加の取り組み等、市民と行政が共に考え、共に行動する協働のまちづくりを推進しますとあります。

ここでちょっとお聞きするんですけども、今、各地域で地域計画というのをやってるんですね。これはどういう位置づけになってくるのかなと私は今思ってるんですけども、その辺はどうなんですかね。教えてください。

○委員長（小木曾光佐子君）

企画政策課長 加藤 昇君。

○企画政策課長（加藤 昇君）

地域計画の策定結果につきましては、それぞれの地域でそれを持っていただくことになってまいりますけれども、この第7次瑞浪市総合計画にもその内容を位置づけてまいります。

今回は基本構想なんですけど、基本計画のほうにその内容を反映していきたいと思っています。

○委員長（小木曾光佐子君）

よろしいですか

では、ほかに。

8番 樋田翔太君。

○8番（樋田翔太君）

今回、この構想策定にあたって、たくさんフューチャーセッションとか未来カフェとか、そういった手法を取られましたけども、ああやって各地域の声を聞くというか、そういう機会が非常に重要だなというふうに感じましたし、ただ総合計画を作るときだけそういうふうに行きに行ってるようなイメージがあって、普段から総合計画はどのようなものかとかいうことが、一般の市民の方に広く伝わってないのが現状かなと思います。

前に職員さんの中のアンケート取ったときでも、総合計画を理解してないという方が結構見えたかなというふうに思いますし、だから10年に1回とか、5年に1回だけやるんじゃなくて、市民の声を常に聞く姿勢を取り入れていく必要があるかと思うんですよ。

それによって、総合計画の内容についても市民によく伝わると思いますし、今回、10年先までということ、学生からの意見をよく取り入れているなというふうに感じましたので、その辺の考え

方をちょっと一回聞いておきたいと思います。お願いします。

○委員長（小木曾光佐子君）

企画政策課長 加藤 昇君。

○企画政策課長（加藤 昇君）

今回、第7次総合計画の特徴としては、本当に多くのワークショップ、それから、小中学生の方にもアンケートを取ったということで、幅広い世代の方からの意見を聴取して作成したっていうふうに考えておまして、全世代の方から共通な意見としては、やはり取り組んでみるとすごく楽しい、市役所ってこういうことをやってるんだねと気づいていただいたということもあります。

我々、のぼりを作ったりであったりとか、ちょっと入りやすいような形でいろいろ工夫をしまして、結果として2,500人ほどの延べ人数になりますけれども、多くの方に意見や参加をしていただいたということもあります。

その中で出た意見としてはやはり、今、委員のおっしゃるとおり、こういう取り組みっていうのはずっと継続していくとおもしろいよねっていうのを我々も聞いております。ですので、今、市長は現場主義・対話主義で、地域懇談会市長と語る会を初め、各種団体とも意見交換を重ねております。

これも定例的になっておりますけれども、大学生や高校生、麗澤瑞浪中学・高等学校さんで言うと、中学生の方も参加しているということで、市民協働課ではミライ創ろまい課というところでも域学連携の取り組みもありますので、これだけ多くのワークショップというのは、どうしてもこういうタイミングでしかできない部分もありますけれども、引き続き、そういう市長と語る会やミライ創ろまい課、それから、いろいろと、市政直行使もそうですけれども、ちょっと工夫して、市民の方からの意見を通りやすいような工夫もしながら、情報発信も強化しながら、この第7次総合計画で今言われたような課題をちょっとでも改善できればいいかなと思います。

○委員長（小木曾光佐子君）

ありがとうございました。

14番 熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

どうしても行政がやると、形作って、出てきてくださいよ、話聞きますよと、いつも同じ人が出てきてしまう。回は重ねまして、5回やりましたよ、5回同じ人間が来たらへんのかと言いたいところがあって、それで本当に聞いたのかということにつながらない。声なき声を聞こうとしたら、聞き方がないと俺は思うんやね。物を言えない人の意思を確認するような聞き方をしないと、いつも同じ答えが出てくる。

これ繰り返すことが行政の役割ではなくて、やっぱり聞けない声も聞く作業というものを増やさないと、いつまでたっても同じことを繰り返すんじゃないかと。それ心配するので、今、樋田委員の質問を聞きながら思ってたところと言いたいところではありますが、何か言えることがあれば言ってください。

○委員長（小木曾光佐子君）

企画政策課長 加藤 昇君。

○企画政策課長（加藤 昇君）

まちづくり、区長会もそうなのですが、そういった意見は聞いておりますし、我々も感じているところもあります。同じ人間、先ほどの協働の話でも出ましたけれども、固定化しているというところも課題の一つでありますので、若い世代の方をどう取り込んでいくかが、今回の第7次総合計画での一つのキーワードかなというところがあって、とにかく将来を担う若い世代の方が、今、中学生や高校生の方が10年後は立派な社会人になって活躍されているわけですので、そういった方たちの意見を聞ける機会は本当に多く設けなきゃいけないと思う中で、市民アンケートとかそういう手法もありますし、アンケートですと今は紙だけではなくて、スマホやインターネットを使って回答できる仕組みもだんだん定着してきております。

いろいろな手段や手法を使って、おっしゃるとおりだと思いますので、幅広い世代の方から意見、特に若者がまちづくりに参加していただけるような、市役所としての、行政としての工夫も、今回課題だと思っておりますので、一つは地域計画を策定することでそのきっかけ作りになったりとか、各地域で行うまちづくりの活動がマンネリ化のものではなく、新たな事業展開される中でそういった取り組みをしていくとか。

先ほど市長も申し上げたとおり、昨日の稲津の市長と語る会では、僕の経験では初めてだと思うんですけども、高校生の方が自らの意思で参加されたということで、更には発言されると良かったかなという印象なんですけども、だんだんとそういう総合計画とか行政に対しての取り組みを、本当に情報発信を上手にして行って、皆さんと一緒に意見を聞きつつ、取り組んでいきたいと思っておりますので、一緒の方向性ですのでよろしくお願いいたします。

○委員長（小木曾光佐子君）

ありがとうございます。

ほかに質疑はありませんか。

4番 棚町 潤君。

○4番（棚町 潤君）

ちょっと簡単な質問ですけど、3ページの土地利用の方向性の中で、今回、瑞浪市として駅北の開発をしますということは、当然この中にもうたわれているわけなんですけど、駅北の地域を見ると、住居ゾーンになってるんですね。

これは商業ゾーンとして発展させるのを目指しているわけではなく、住居ゾーンとしてあくまでも行くよというようなことでよろしいですか。

○委員長（小木曾光佐子君）

企画政策課長 加藤 昇君。

○企画政策課長（加藤 昇君）

駅北の開発については、そこに、複合公共公共施設を作ろうとしています。既存の住居ゾーンは

存在するわけでして、そこに商業施設が張りつくということも、その複合公共施設の中に、カフェであったりとか、そういった計画はありますけれど、これからの展開で、駅北に公共施設ができることで、そこが何か張りついていったりすることは可能性としては十分考えられるんですけども、今の現状でちょっと白抜きの部分もあると思うんですが、どちらかというとなら99号より北側というか、その辺りが住居ゾーンのイメージです。

○委員長（小木曾光佐子君）

4番 棚町 潤君。

○4番（棚町 潤君）

方向性なので、10年後に商業ゾーンになってるように働きかけるのかどうかの確認だったんですけど。

○委員長（小木曾光佐子君）

企画政策課長 加藤 昇君。

○企画政策課長（加藤 昇君）

そういうふうに広がっていけば大変ありがたいと思いますけども、駅南地区の開発も併せて進めていく中で、この辺りは駅周辺というのが活性化できることを目指しておりますし、サードプレイスというキーワードを使ってますけども、自宅や学校以外でくつろげる場所ということで、ここが滞留できるような場所になれば、そこで経済効果も出てくると思いますので、行政としてもそういう期待も込めながらこの再開発に取り組んでおります。

○委員長（小木曾光佐子君）

ありがとうございます。

ほか。

1番 福永泰子君。

○1番（福永泰子君）

今の棚町委員と同じ、この3ページの図についてなんですけど、こちらは現状がこうだという示しであるのか、今、棚町委員が言われた、こうしていきたいというものであるのか。

特に変化を求めるわけではないという捉え方でよろしいのでしょうか。

○委員長（小木曾光佐子君）

企画政策課長 加藤 昇君。

○企画政策課長（加藤 昇君）

今回、計画期間を令和6年度から令和15年度の10年間としております。その間に確実に実施できるものは実施したい、していきたいものについては落とし込んでおりますけれども、基本はこれまでの流れのものを落とし込んだ上で、この10年間に組みたい事業、こういうふうにしたいたいところを表しております。

先ほどの棚町委員のお話もありましたので、ここははっきり商業ゾーンという位置づけにはしていませんが、もちろん10年たてばどういふふうになるかも、現段階では読めないところもある

ので、委員おっしゃるとおり、現状も踏まえつつ、10年間で実施する事業、繰り返しになりますが、そういったところの方向性を示しているにとどまっています。

○委員長（小木曾光佐子君）

1 番 福永泰子君。

○1 番（福永泰子君）

基本方針の土地利用の方向性ということで、1の基本方針の中に「調和のとれた発展」という文言があるんですが、この調和は市としては、瑞浪市の全体の図で見たときに、色分けをわざわざされてるんですが、その色分けの色のバランスが全体的にバランスよく配置されるということを調和を取れてるとするのか、もしくは6つのゾーンがはっきりと分けられている状態を調和を取れているというふうに捉えてみえるのかという意味では、この「調和」というのはどういう表現をされているのか、お願いします。

○委員長（小木曾光佐子君）

企画政策課長 加藤 昇君。

○企画政策課長（加藤 昇君）

ありがとうございます。どの地域に住んでいても、生活、快適に暮らせるようなまちづくりにしたいということも考えながら、どうしても中心市街地にそういった商業施設が固まるということもありますけれども、各地域の拠点でありますコミュニティセンターや学校、そのあたりの生活の拠点となる部分、それから、駅周辺では、商業施設やこれから開発しようとする複合公共施設、そういったところと市全体で調和のとれたということで、それぞれ感じ方はいろいろあると思うんですけども、バランス良くといいますか、そういう意味合いでの「調和」ということです。

○委員長（小木曾光佐子君）

よろしいでしょうか。

いいですか、今のこの地図のところも、コミュニティセンターとか、文字が少し前よりも大きくなって見やすくなってるということところにも細かい配慮がされたなと思ってますけど。ありがとうございます。

ほかに。

4 番 棚町 潤君。

○4 番（棚町 潤君）

これもちょっと確認なんですけど、駅北、病院、道の駅と、これは10年間かけて3つの大きな事業を、プロジェクトを進められると思うんですけど、駅北と病院については、この中の施策の大綱の中に書かれているんですね。見落とししてるかもしれないんですけど、道の駅の文言がちよっと見当たらないなと思ったんですけど、これはどの辺が網羅していると読み取ればよろしいでしょうか。

○委員長（小木曾光佐子君）

企画政策課長 加藤 昇君。

○企画政策課長（加藤 昇君）

道の駅というキーワードは、先ほどの土地利用の方向性のところの、2ページの一番下ですね。交流拠点というところの中に書いてあります。もちろん基本計画のほうには位置づけてまいりますので、お願いします。

○委員長（小木曾光佐子君）

よろしいですか。

4番 棚町 潤君。

○4番（棚町 潤君）

なかなか今から直すのは難しいかなと思ってはおるんですけど、できればこの大綱の中にあるべきことかなと、ちょっと僕の中では思っておるんですけど、その点はどうでしょうか。

○委員長（小木曾光佐子君）

理事（兼）総務部長 正村和英君。

○理事（兼）総務部長（正村和英君）

個別具体的な施設名称とかは余り基本方針のところには出てこないような形にあえてまとめているかと思えます。道の駅とかという形は、いろんな要素があるものでありますので、それは構想上で言えば、交流拠点の位置づけをさせてもらってますけれども、そこには釜戸の交流拠点の意味合いもありましょうし、農業振興とか、産業振興とか、それから、地域の活性化という、まちづくり、人づくりのところの部分というのを、展開の仕方によって大きく関わってくるところがありますので、そういった個別のものをここに位置づけるとかという形では、構想の部分ではやっておりませんので、そういったようなご理解をいただければと思います。お願いいたします。

○委員長（小木曾光佐子君）

ありがとうございます。

ほかに質疑はありませんか。

7番 辻 正之君。

○7番（辻 正之君）

17ページの人口ビジョンの考え方と将来展望というところで、令和6年から令和15年までに人口が下がっていくわけですが、それが3万4,000人までちょっと持ち上げるというような計画になってると思うんですけども、これを達成するために、この構想の中でどのようなことが含まれているのかちょっとお聞きしたいなと思うんですけども。

○委員長（小木曾光佐子君）

企画政策課長 加藤 昇君。

○企画政策課長（加藤 昇君）

一言で言えば、もう全てになります。その中でも特にということであれば、17ページの瑞浪市人口ビジョンの考え方ということで、そのグラフのすぐ下に表になっているところがございますが、表の下のほうに「政策効果としては各種子育て支援施策、移住定住施策、瑞浪駅周辺再開発事業やリニアの開通を見据えた岐阜県リニア中央新幹線活用戦略などを想定しております」ということで、

特に重要視している施策をここに載せておりますが、構想に書かれている全てがこの施策効果というふうに捉えていただきたいです。

○委員長（小木曾光佐子君）

ありがとうございます。

ここにある、グラフの中にある施策効果というのにも前はありませんでした。ここにこういう施策をすることで、この人口を保ちたいという意味で挙げてありますので、ご理解ください。

ほかによろしいですか。

2番 犬塚利彦君。

○2番（犬塚利彦君）

釜戸駅周辺ですけど、JRが通っているというような有利な条件もありますが、今現在、非常に寂れておりますが、今後この釜戸駅周辺についてはどのような構想を持っておられますか。ちょっとお聞きしたいですけど。

○委員長（小木曾光佐子君）

それ、あくまでも構想ですので、その細かい内容についての質疑は今日はやめていただきたいと思います。

ほかに。よろしいですか。

4番 棚町 潤君。

○4番（棚町 潤君）

パブリックコメントを読ませてもらう中で、9番目の意見だと思うんですけど、人口フレームについて、瑞浪市がどのような人口形態というか、男女比だったり、年齢比だったり、外国人を入れるのがどうかだったり、そういう人口の中でも、どういう割合で人を増やすのか。そこら辺をちょっと示したほうがいいみたいな、パブリックコメントがあったんですけど、これが計画に書かれるのかな。パブリックコメントの回答で書かれてたんですけど、そのあたりも踏まえて、計画には落とし込まれるという認識でいけばいいですか。ちょっとそれだけここ、確認しておきたかったなと思ったんで。

○委員長（小木曾光佐子君）

企画政策課長 加藤 昇君。

○企画政策課長（加藤 昇君）

年齢階層別人口というものは、基本計画の中で、年少人口、それから、生産年齢人口、そのあたりは基本計画で表してまいります。

○委員長（小木曾光佐子君）

よろしいですか。

基本構想についての質疑でよろしくお願いたします。

ほかにありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ほかにはないようですので、これで質疑を終結したいと思います。

○委員長（小木曾光佐子君）

これより討論を行います。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

別段ないようですので、討論を終結いたします。

それでは、これより採決を行います。

お諮りします。

議第71号 第7次瑞浪市総合計画基本構想を定めることについて、原案のとおり決することにご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。

したがって、議第71号は、原案のとおり決することといたしました。

○委員長（小木曾光佐子君）

以上で、本委員会に付託されました議案の審査を終了いたします。

審査結果の委員長報告につきましては、委員長に一任願います。

これをもちまして、令和5年第6回総合計画特別委員会を閉会いたします。

ご苦勞様でした。お疲れ様でした。

午前10時29分 閉会